

International Society of Life Information Science (ISLIS)

The 48th Symposium on Life Information Science

第48回生命情報科学シンポジウム

大会長挨拶



大会長 木村 真人

日本医科大学千葉北総病院 メンタルヘルス科 教授

Chairman Mahito Kimura, MD, PhD

Department of Mental Health, Nippon Medical School Chiba

Hokusou Hospital

第48回生命情報科学シンポジウムを2019年（令和元年）8月23日（金）から26日（月）までの4日間にわたり、会津磐梯山の中腹に位置し、眼下に猪苗代湖を一望できる「猪苗代観光ホテル」で開催させて頂くことになりました。猪苗代はご存じの通り、野口英世の誕生の地であり、野口英世は私の母校である日本医科大学の前身である済生学舎で医学を学んでいるという縁もあります。

今大会のテーマは「全人的医療・科学の再考と新たな視点」です。私は精神科医で専門はうつ病を中心とした気分障害ですが、近年精神疾患の病態の多様性が大きなトピックスになっており、一辺倒な薬物療法や精神療法では回復しない方が年々増加しています。

全人的医療・科学の必要性は、昔から強調されており、病気そのものではなく、病を抱えた一人の人間として、その人の心理・社会的背景なども含めた個々人にあった総合的な対応が常に求められています。今日、さまざまな疾患の生物学的メカニズムも解明されてきており、全人的医療・科学も再考し、新たな視点で取り組んでいくことが重要だと考えています。

シンポジウムでは、しのだの森ホスピタルの信田広晶先生に「自然治癒力の可能性」という内容で企画をお願いし、大会の副会長にも就任して頂きました。また、私は日本催眠学会という学会を主宰していることから、その学会の理事でもある日本ホリスティックアカデミーの村井啓一先生に催眠ワークショップの企画をお願いしました。

特別講演としては、本学会の理事でもある小山悠子先生に「歯科領域における全人的医療の実践」という講演をお願いしました。また、日本医科大学精神医学教室の私の後輩で、現在創価大学教育学部の教授である遠藤幸彦先生に「精神分析療法の今日的意義－精神分析的な精神療法の実践から考える－」という講演をお願いしました。会長講演としては「うつ病に関連する脳部位と最新の診断治療」という講演を予定しています。

元号が「令和 Reiwa」に変わり、新たな時代の幕開けになる記念の年に大会長を拝命することができ大変光栄に思っております。「令和には、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められている」そうです。ISLISの会員諸兄が、融和の心で一致団結し、本学会がますます発展することを期待するとともに、この夏合宿においては、風光明媚な磐梯山と猪苗代湖を眺めながら、ぜひ皆様と語り合いたいと思います。

多くの皆様のご参加をお待ちしておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。